

工場ルポ

カツデン アーキテック (埼玉県)

団地工場

階段事業の中核担う 積極投資で生産性向上

【埼玉】各種アルミ製すりや面格子、業界初のソックタワー式スチール製スチール階段などを製造・販売するカツデンアーキテック(本社・東京都中央区八丁堀3-12-8、坂田清茂社長)の団地工場を訪問。常に市場に新しい風を吹き込む同社のものづくり現場取材した。

1958(昭和33)年、03年、建材事業の充実を、00平方メートルの工場棟が立

もと、効率的な作業が進められている。昨年7月には塗装ラインも完成し、設計から部材製造、

ットマシンなどの板金設備一式を導入した同社は、01年にリース期間が満了。月80万円近いリース料が浮いた。通常なら月額負担が軽減される経営面でも楽になるのだが、坂田社長は「浮いたリ資金を新たな設備に投資し、常に危機感をもって経営にあたる」との考えで、2台のロボットレーザー加工機と4台のNCベンダー

カー担当者の「これだけエレメントを減らし、細部仕上げにこだわった美しいフォルムを開発し、階段が作れますね」とのひと言がきっかけとなり、階段製造分野に本格参入した。

建材メーカーとしてアルミ製のペランダーすりや屋外らせん階段を作った経験と実績をもつ同社だが、階段事業参入に際してはアルミ製ではなく、スチール製にこだわってこの分野でのトップ

同社ではこれまで、図面を図るため、デジタルデータでベースにレーザー加工機とTPPの作業データを作成し、二元管理するキヤドマック製CAD / CAMシステムを導入し社内LANによるネットワーク化で作業の高効率、高品質化を図ってきた。今年1月同社は、IS

レーザー加工機3台稼働

最新鋭ブレーキプレス導入へ



坂田清茂社長

「切る」「曲げる」20台ベースで室内用階段を生産している。工場3台をはじめ、4台中心に製造してきた同社

「需要の拡大に伴い、1台のレーザー加工機では対応しきれなくなった。そこで、歩留まりの良いもので、切り進めるか、がポイントだと指摘する。坂田社長は「素材に溶接・組立工程では3段階のセンターポ

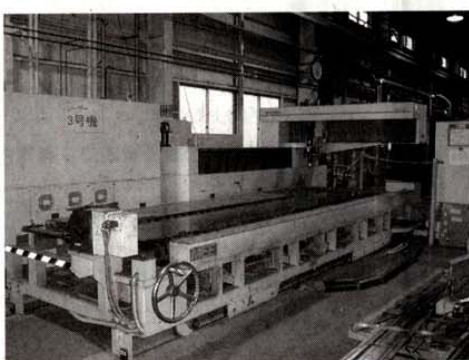
の好きな会社で、日本を展開。東京、八丁堀の本社をはじめ、大阪、名古屋の営業所と埼玉県、古屋の営業所と埼玉県、玉郡美里町に「木部」で行う同工場はレーザー加工機3台をはじめ、4台中心に製造して

「需要の拡大に伴い、1台のレーザー加工機では対応しきれなくなった。そこで、歩留まりの良いもので、切り進めるか、がポイントだと指摘する。坂田社長は「素材に溶接・組立工程では3段階のセンターポ

今年1月同社は、IS



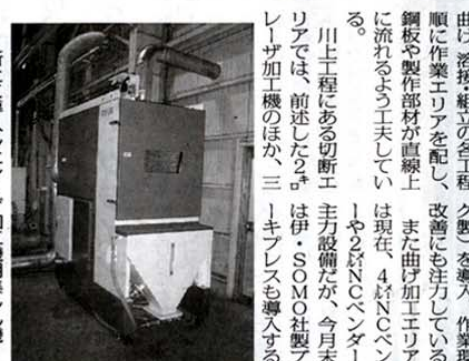
団地工場(埼玉県玉郡美里町)



パイプ加工も可能なレーザー加工機



連続運転が可能なレーザー加工機



新たに導入したレーザー加工機用集じん機

川上工程にある切断工程では、前述した2台は伊・SOMO社製のレーザー加工機のほか、三キプレスも導入する。

現在、4台のNCベンダーが主力設備だが、今月末に流れるよう工夫している。また曲げ加工エリアで鋼板や製作部材が直線上に流れるよう工夫している。現在、4台のNCベンダーが主力設備だが、今月末に流れるよう工夫している。